

先日電車での帰宅途中、荷物が多かったので、一つは網棚に、もう一つは膝の上に置いて乗った。ちょっと悪い予感がよぎったが、乗る時間は三〇分少々。まあ、大丈夫だろう、と思ったのが良かった。果たしてその予感的中。網棚の上に何物を忘れたことに気づいたのは、電車を降りてしばらくしてからのことだった。

帰宅後、電話をしたが、忘れ物の類は届いていないという。後の祭り。荷物を分けて置くと忘れやすい、というあの法則をかみしめたのでありました。

さて、こういふとき、もし忘れ物が届いていたとするとどう言っただろうか。おそらく、

「よかった、あった!」

ではないだろうか。「よかった」と「た」を付けた形、いわば過去を表す形(過去形と呼ぶ)になる。「よい」とは言わない。一方、電話をした直後、だめだったというところを家族に報告するとすると、「だめだった」と過去形も使えるが、

「だめだ、荷物は届いてない。」

という表現も使える。実際、確か私はそう言ったと思う。

きには過去形にはならない。それに比べて、「だめだった」は、決着すみのことなのである。

そう考えると、「よかった」は、状況が「よい」ということで決着がついたということを表す意味だと言えそうである。合格の知らせを聞いたときなども「よかった」と言える。「よい」というと現状、あるいは、今の判断を表すことになりそうだ。「それでもいいよ」という感じで、あまり喜んでいない感じだ。

「よかった」の場合、例えば、忘れ物が見つかったという状況では、一応「よい」という結論が出たことになる。一件落着である。だから「よかった」と言えるのだらう。これを「一件落着の『た』」と呼ぼう。

ちなみに、考えてみると、「よかった」という表現自体いろいろな意味がある。

まず一つは、「た」が純然たる過去を表す場合である。過去のことであって、現在とは違うという状況に対応することもある。例えば、

「この辺りの景色は昔はよかった。」

などと言え、もう今はよくないということを表す。これはさきほどの忘れ物が見つかって喜んでいるときの「よかった」とは少し違う。

一方、「今は違う」という含みをもっていない場合もある。例えば、旅行に行ってきた人が、

「松島はよかった。」

考えてみるとこれは非過去を表す形(仮に現在形と呼ぶ)である。

なぜ届いていたときには「よい」と言えず「よかった」という過去形しか使わないのに、届いていないときは「だめだ」という現在形も使えるのだらう。

もっとも、忘れ物が届いていない、という状況で、「だめだ」ではなく、「だめだった」という過去形のほうを使うこともできないわけではない。その場合、あくまで、問い合わせたときに「だめだった」という過去の状況を言うという意味である。では「だめだった」と「だめだ」はどう違うのだろうか。

例えば、野球の試合を見ていて、最終回で三、四点の点差があつて、もうほとんど負けだ、という場合には「だめだ、負けている」と言っ。しかし、その段階では「だめだった」とは言わない。「発逆転ということもないわけではないからだ。あくまでも「だめだった」のように言つとすればそれは試合終了後という気がする。」「だめだ」のほうは、どちらかといえば現状報告、というニュアンスがある。まだかるつじて一縷の望みが残っていると

と言つ場合、観察ないし経験された過去を表す。「松島」は今でも「いい」はずだが、経験してきたことは過去、というわけだ。

さらに、発見する場合もある。練習問題の答え合わせをやつていて、

「あ、なんだ、答えはこれでよかった。」

という場合などは、答えはこれでいい、ということを見出すという意味だ。この場合は「いい」にも置き換えられるところが違う。

しかし、いい知らせを聞いて「よかった」という一件落着の「た」は、同じ過去の表現ではありながら、微妙に違っている。すでに成立してしまっている過去のことを述べる点で、基本的には「松島はよかった」のタイプだと言えるが、単なる過去の経験ではない。決着した過去の状況だが、「今の思い」にも通じるころがある。

「よかった」という言葉の使い方を考えているとなんとなく嬉しくなってくるのだが、現実とは違った。結局、待つていてもその荷物は戻らなかつた。「だめだ」のまま、とつとつ「だめだった」となった。

ちなみにその荷物とは、頂きものの洋菓子。どうやら見知らぬどなたかの胃袋に落ち着いたものと見える。逃がした魚は大きい。食べられなかつたお菓子はおいしい。ん？過去だから、おいしかった？いや、おいしいはずだった？おいしかったかもしれない、と言つべきか？